

櫛觸神社（くしふる神社）

(要旨)

くしふる神社は、天照大御神の孫である瓊々杵尊が祀られている神社です。日本神話によると、天照大御神の命により瓊々杵尊は、豊葦原・瑞穂国を鎮めるために多くの神々を従え、天降られたと伝えられています。1694年には、神々が降臨されたと信じられているこの峰に社殿を建立しました。古くは、社殿はなく山そのものをご神山として崇めていました。瓊々杵尊は、神話の代表的な神の一人であり、日本の初代天皇の曾祖父でもあります。そして日本の皇室の起源は瓊々杵尊を通してたどることができます。

くしふる神社周辺は、神話史跡コースの遊歩道が整備されています。「四皇子峰」「高天原遥拝所」「高千穂碑」「風土記・万葉の丘」などがあります。

櫛觸の峰(くしふるのみね)

日本の古い歴史書でもあり日本神話の元とも言える古事記の中に、その昔、天照大御神が、孫である瓊々杵尊にこの地上を治めるために遣わしたとあります。天から瓊々杵尊は他の神々と共にくしふるの峰に降臨しました。これが天孫降臨です。その降臨の地と思われる高千穂地域の山中に神社が建立されました。今のくしふるの峰です。神社が建てられる前は、山そのものを神と崇めていました。